

## コロナ禍が学校・児童生徒に及ぼした影響

1月も今日で最後となりました。新型コロナウイルス感染症については、感染症法上の位置付けを5月8日から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げることなどが決定され、今後、学校の新たな対応についても協議がなされることと思います。文科省の通知等を注視しながらも、校内でも協議を進めていく必要があると考えています。

さて、先日、文科省初中分科会において「コロナ禍が学校・児童生徒に及ぼした影響」についての調査研究が報告されました。この調査は、令和2・3年度に各1回、第6波までの期間で、調査対象となった教育委員会・学校・児童生徒・保護者からの回答を分析したものです。行事の中止率では、音楽会など音楽系の行事の中止が高く、卒・入学式など儀式的行事は規模や時期を変更して実施した学校が多かったようです。

分析結果のまとめで、気になったことが2つありました。

1つめは、行事の中止が児童生徒に及ぼした影響についてです。特に小学生の一部に対して学校生活への不満を高める傾向がある。中学生の一部には、部活の縮小や大会の中止が心理的に影響をしていた可能性がある。児童生徒の置かれた状況により反応は予想以上に多様であった可能性が高いとのことでした。

昨日新聞に取り上げていただいていた本校児童の作文の幸せの鐘への願い事に「コロナが消えてほしい」と願ったと書いていました。私たちも新しい生活様式に慣れてきた感はありますが、

やはり人との交わりや一堂に会する機会を控えているのが事実です。制限があることで子どもたちにとって奪われたものは何か、5月までに今一度考えておくことが、大切であると考えています。

もう1つは、保護者や地域住民が学校参加（参画）する学校の行事中止率が低い傾向にあり、コミュニティとの関係の構築が、教職員の多忙化や児童生徒の様子が悪化防止につながるとの結果から、市で推進しているコミュニティ・スクールを活用した「地域とともにある学校づくり」を地域保護者の皆さんと共に推進していくことが重要であると感じました。今年の学年活動では、タブレットを持ち帰り、クイズなどで交流頂いた学年もありました。PTAでは、新年度の3役が決定し、今後学級役員の選出と新旧引継ぎへとお世話になるところです。2月16日に予定している学校運営協議会では、今年度の学校評価と統合に向けた計画に加え、竹田小学校最後の年に「大切にしていきたいこと」「子どもたちに培いたい力」などをお伝えし、子どもたちを中核におき保護者・地域の方々と手を携えて進んでいこうと考えています。